



中村 文子 議員

青パトで住みよい街づくりを

質問

今年も愛知県は、交通事故死亡者数が全国ワーストである。県知事は緊急事態宣言を発令した。市においては、

犯罪件数が平成24年1月から10月で、608件も発生している。こうした犯罪や交通事故を未然に防ぐために、青色回転灯装備車（青パト）の活動促進をしては。

総務部長

市の青パトは1台しかない。地域安全相談員1名で、各庁舎を拠点に巡回している

が、回転灯は回していない。青パトを有効に活用し、市内を巡回できる体制づくりをしたい。

質問

近隣市町村では、ボランティア団体も含め、数多くの台数と人数で活躍している。

青パトは人目につきやすく、犯人を寄せつけない。機動力を生かした広範囲な警戒ができる。住民の防犯意識が高揚されることから、防犯活動に極めて有効とされる。

空き巣、不審者、ひったく

り、登下校時のパトロールなど、まちづくりの環境として、青パトの強化を図ってほしい。市の青パト受講者は何人いるか。

総務部長

総代、他区の各種団体など、総体的に意識を高めていく必要がある。将来の課題としたい。青パトの受講者は、安全対策課職員8名、女性交通安全友の会6名の計14名である。

質問

3M運動（もっと、みんなで、門灯を）に関して、センサーライトの普及も、防犯意識を図るのではないか。

総務部長

9月広報でチラシを配布した。設置については各家庭の判断に委ねる。

市長

防犯や交通安全対策など、地域の人の力が必要、交通安全協議会を通して一層PRしていきたい。



青色回転灯を装備したパトロールカー

八開診療所の受診者拡大を

質問

八開診療所はいつごろから始まったか。一日に何人くらいの受診者か。

市民生活部長

昭和27年に八開村が神野康済会より購入し、平成16年5月に現在の場所に建設した。

平成23年度は、延べ1万301件、一日当たり約35名の受診者になる。

質問

診療科目は。今のままで維持していけるか。

市民生活部長

内科、外科、小児科、消化器科、呼吸器科、循環器科、放射線科がある。

基金から繰り入れをしているので、受診者数が増え、基金を取り崩さずに、単年度で赤字になるのが理想だ。